

平成 26 年度 わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成 26 年 6 月 28 日 (土) 午前 10 時 55 分～午前 11 時 55 分
- 2 場 所 (仮)田舎暮らし体験施設
- 3 出 席 者 豊田特産振興会 13 名
- 4 市長講話
- 5 質疑応答・意見交換

【会長あいさつ】

今日のご苦勞様です。この毛野川地区において、空き家が出たということで、活用法について市長さんと相談しながら進めて、地域の振興に繋がられていければいいかなと思って、その辺の助言をいただければよいかと思っております。農業等で急がしくて会員さんが半分くらいしか集まれませんですけれども、みなさん農業が一番と思っているわけですけれども、ふるさとを思う気持ち、ふるさと振興、故郷のふるさとである豊田村では、なんとか地域に根差した故郷であってほしいと思っているわけですけれども、この上に畑を借りてあり、作付けもしてなされたようです。本日もよろしく願いいたします。

【市長講話】

この施設の活用ということで、それを中心にすえながら、なぜ活用したいかということを展開していきながら、これからやるとしたらどういったことに焦点を当てて、目標を定めて運営していくかということをお話していこうかと思えます。

一点目は、新幹線が引けるということでどうなるかということですが、中野市には宿泊施設がほとんどないということの中で、私が市長に就任した折に、グリーンツーリズム協会に中野市が登録してなかったということで、すぐに登録したんですけれども、豊田があるじゃないかということで登録して、それが消滅してしまって、新しい地域ブランド研究会にその資金を当てたんですが、中野に来てもらっているいろんなシーンが中野市にあって、豊田には故郷のふるさとの原型があると。今求められている旅というのは、すごく豪華な施設に泊まる旅から、「過ごしたかった日常」という、そこに行けば、原体験というか、そういう風景の中でのんびり過ごす、長期滞在型を狙ってこれからやっていけばどうかな、と思っています。

豊田という地籍は、非常にそのもので売り出し方によっては、ネームバリューがあるし、ブランド化もできると思います。その中で、泊まってもらう施設がほしいというところで、ここが一つ候補に挙がって、ここで成功すれば、いろいろなところにそのノウハウを広めて増やしていきたいと。

直近の課題としては、今年から若者会議なる会議を始めるわけですけれども、まちの若い人たちばかりじゃなくて、都会から学生とか、外国人とかを呼んできてセッションをやったりして、外の目を見てこの地域をどう思うかというのは、意見をもらいながらやっていきたいと思っています。その折に、中野に来て話して、山ノ内に泊まって中野を語るのでは意味がない。ここでもし成功すれば、まちの中にもゲストハウスのような運営とかそういったものをやってみたいと思っていまして、ここの話を聞いて、これはいいなど、ここは一度訪ねたことがあったので、ここであればすごく人が来た時に、自然の中で静かに体験できるねと思って、ぜひやりましょうということで、考えていました。

始まれば、最初に4つのPと言いますけれども、プロダクト、プライス、プレイス、

プロモーションがマーケティングの基本ですが、まず、どういった形で、どういったメニューを提供できるかというものを具体的に考えてもらって、それを持って最初はモニタリングツアーをやってみると、それでその方々の意見を聞いて、走りながらブラッシュアップしていけばいいんじゃないかと。そのモニタリングの中で、ここを気に入ってくれた人は、将来的にはここを支えてくれるメンバーにすればいいんじゃないかと。いわゆるメンバーシップ制ですね。一見さんではなく、リピーターとしてやって来てくれるようなそういった形での運営はできないだろうかと思ったんです。

今、この豊田地籍には外とつながっている巨大なマーケットがあるなど思っています。それは聖光学院です。聖光学院があそこに来て過ごすんですけども、そうじゃなくて村部との交流という形で、学生さんが泊まってもらうことも一つの仕掛けですし、彼らは受験校なので10人ぐらいが集中学習をしたりしますので、こういうところで座学で集中特訓をやるのにも使えるなということで、施設さえ準備できていれば私は人が来ると思っています。

横浜方面とのつながりを皆さん期待しているので、神奈川の受験校で、毎年志賀高原に合宿で来ているんです。その中でもいろいろなクラスがあって、行くところが分かれているので、その中の一部をここで、先生一人つけて、集中合宿で使えるだろうと。

昔はNHKで緑陰経済講座というのがあったんですが、軽井沢で行われていたのですが、そういうような機会もここで取れるかもしれないと。そういう場合は相当なお金を取って、いわゆる会社の経営者を集め、経済学者とか評論家が一人来て、車座で研究するんです。ああいう人たちはこもるんです。そこでひざ詰め、車座で親しく会議することによって、経営のノウハウを交換して、持ち帰るという場にも、ひっそりとした空間に価値があると思っています。この地域でできたら、豊田にはまだまだたくさんこういう空き家があるとすれば、連動し、連携させてできないだろうかと思っています。

まずは、ここがやってみるということで、仕掛けたいと思ったわけです。食事は一体どうするのかと、泊まる場所は自分で布団をひけばいいんです。大体社宅などあるところは、自分でひいてくださいと、帰りがけには布団をきちんと収めて、シーツはここに畳んでおいてくださいというようなやり方をやっています。それと一緒にセルフでいいんです。食事あまり手間をかける必要はない。メニューだけ用意しておけばいい。ここに行けばこういうものが食べられます、ここいけばこういうものがありますと、彼らは来た時にメニューを自分たちで組み立てます。一つは、神奈川県の上野原に研修センターがある。メニューがあるのですが、上野原に降りて食べてもいいよとか。私が昔企画したときには、社長さん20人ぐらいを集めて、車座でゼミナールなんかをやるんですが、今日は下に降りて焼き鳥を食べましょうと、それが夕食ですと言って、食べてからまた戻って夜のセッションをやるんです。そういった十分な利用空間を提供してあげる。ここ豊田という地籍は人が来ると思っています。

そういった思いが、具体的に現実になるかどうかとことで、今考えているのは外国人

を呼んでこようかと思っています。なにもなく部屋だけ貸してあげればいいんです。アメリカ、カナダ研究センターが横浜みなとみらいにあるのですが、そこに来ている学生さんに来てもらって、ここでごろ寝でいいと思うんです。ここにきて生活文化に触れてみて、研究してセッションして交わって帰るといようなメニューに組み込んでいいよというのをもらってます。

また、先ほどはなした若者会議でこの空間を過ごしてもらおうといった、ある程度まとまった集団で利用してもらおうということで採算を稼ぐかと。一人二人では収益的に弱いかかと、団体を取っていかうかというように思っています。いずれにしても、最初から大風呂敷広げてやるんじゃないくて、まずはメニューを一つ作って、向こうの横浜とか東京の人に渡して、こちらに来てもらって、モニタリングをして、ここがこうゆう風にしたらいとか、出来るところ出来ないところをブラッシュアップして、本格的なスタートを半年先か一年先か、来年春のシーズンに向けてそれに向けて準備するといような形でいいと思います。

あとは、そういう人たちにスモールファンド、投資ファンドといって小さな金額ですけども投資してくださいと、投資で資本金みたいなもので、その人たちにメンバーになってもらおうと、この運営に関心を持ってもらおうという意味で出してもらおう。運営に関する意見は言うけども、運営そのものにはかかわらないというミニ投資をしてもらうのはどうでしょうかと。そういう人たちを、ここに来て体験して、こちらにどんどん誘導したい。中野が好きな人たちで、そういった機会ができるんじゃないかと思っています。行ってみれば交流のやり方です。

この施設をやってみて、1つはノウハウを蓄える、1つは実際やってみてノウハウをブラッシュアップして、もしここでできれば、そのノウハウを持って、他の人に全部伝授することができると思っています。ここで携わった人は、享受してあげるのもできるようになればもっとすごいなと思っています。

まずはやってみないとわからない。秋に焦点を当てて、どういったおもてなしができるかと、検証して、それがメニューになるかもしれません。これだけの施設であれば、絶対できると思っています。あまり手間をかけないというのがいいと思います。規則を作って、自前でやってもらおう。その方が非常に効果がある。

ある旅行会社が、学生さんに一般の若者たちに、インターネットで呼びかけて、20人ぐらいを集めて、ある施設に食材を置いておいて、そこに若い人たちが来て、だれがリーダーか決めてないのに、自然にリーダーができるような、出会いの場として使えると思います。学生とかに、学内で体験をしてみませんかというやり方もいいかもしれません。来た人たちに何がやりたいですかと聞いて、就農体験とかをやってもいいと思います。川崎にある医療器具メーカーがあるのですが、30年前から農業体験を研修に取り入れています。春になると、全員で会社を休んで田植えに行くんです。草取りにも行くんです。人を育てるとか、守るとかの精神を、農産物を育てることによって、大切さを

教えるのが、経営理念になっています。企業とかにこういう施設がありますよと宣伝すればすぐ飛びつくと思います。

そういうような仕掛けを私自身も、将来誘致してくるつもりではありますが、病院の看護のための宿泊施設が必要ではないかと思っています。安いビジネスホテルがあれば長期間泊まります。そういうニーズも出てくると思います。

ここはそうではなくて、あくまでもこの地籍と環境と風土を生かした研修の場としてできればと思っています。

彼らは車の移動であれば苦にしません。あとはどういったメニューを提供したらいいのかをわからなければ、彼らに聞いてもいいと思います。

ゆくゆくは改装とか、周辺整備とか、うまい相互乗り入れができて、元気づくり支援金などをさまざまな人たちと協働で使用したりすることもできます。豊田農産物加工施設利用組合に弁当を出してもらうとかもできると思います。

あとはプライシングです。いくらとるかです。連泊を基本としているので、須坂のゲストハウスは何人泊まっても定額でやっているの、一人最低 3000 円で 10 日泊まっても 3 万円で泊まれます。貸自転車も一日いくらというやり方もあります。どうやって付加価値を付けるかと思ったんですが、毛野川地区までの道筋は、トマムのリゾートに行く途中にとっても似ていると思います。あと、目標で年間どのくらい集客するか、採算をどこでとるか。ボランティアでは絶対続かないので、果物を売ったりしてもいいし、そういうところからそれぞれが繋がって、顧客リストができてくると思います。

【質疑】

参加者：現在、簡易宿泊施設としたいが、旅館業の許可を取るには様々な問題があり、すぐに始めるのは難しいとの考えである。そこで、来年ぐらいから食事を提供する施設として一旦始めたいと思っているので、様々な面で行政の支援をお願いしたい。

市長：承知した。

参加者：自分たちはここに何十年と住んでいるので、都会の人たちの考えがわからない。どのようにしたらよいか。

市長：都会の人には、この場所はすごく贅沢です。絵をかいたり、本を読んだりとする空間がない。空を見るだけでもとてもいい場所だと思います。